



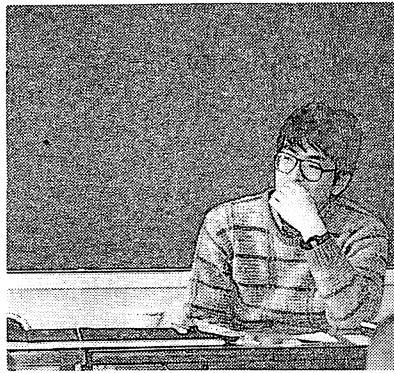
出合い ふれあい 助け合い



あべの

No.70

# 久しぶりに岡さんと...



サロン・あべの三月の出会い

平成四年三月二十一日(土)午後一時、育徳コミュニティセンター二階研修室に於いて、三月の出会いが開かれた。

元あべの・ボランティアビューローのコーディネーターで、サロン・あべのの生みの親でもあり、サロン紙に毎号エッセーを執筆し

ていただいている岡知史氏(以下、「岡さん」と呼ばせていただく)をお迎えし、その実像に迫ってみた。

まず、こちらで用意したレジメ(エッセーの抜き刷り)を読んただき、簡単な自己紹介の後、

岡さん自身からエッセーについてのお話を伺った。

姫路に実家があること。富山の臓病で絶対安静が必要な妻が看取方の方で数学を専攻されていたこと。当時は性格が暗く、大学生活も暗く孤独であったが、あるとき、ボランティアとして障害児施設に行き、「ひとを救うもの」というタイトルのエッセーにある体験をし、初めて人の温かさを知ったことを伺った。

直接伝えるだけが愛情の表現ではなく、知らない間にも多くの

通じ合わないが…。

大阪ボランティア協会から発行「愛」は伝えられているのではな

いか。また、ぼけは悲惨で暗いものと考えられがちだが、いちがいには暗くなるとは考えられず、人に感動を与える場合もある。ALS という難病の女性の場合も、家族に笑顔をふりまき家庭を和やかにさせている。

参加者からは「ぼけるとその人の本心が出るらしい。困ったこと

に、いかに社会的に立派な立場に

いた人でも、狂暴になったり、人の悪口ばかり言うようになる人も

いる。人の一生は死ぬときに決まるとすれば、こうならないために

も誠心誠意生きるしかないのか」という意見や、エッセーについて感動したことなどの発言があった。

その後も、中国の話。韓国の話。そして、経済的には豊になったが、何かを失った日本の話。孤独につ

いての話。岡さんからも参加者が

らも、発言が続いた。

『イラストの秘密』

毎号岡さんのエッセーの内容に

ぴったりで、とても素敵なイラスト

トを描いてくださっているのが石

田さんの奥さんである。その奥さ

んのイラストの原画が、初めて披露された。

石田さん手作りのストックブックに貼り込まれた原画は、思っ

いたよりも大きく、制作段階の苦労のようなものも、読みとること

ができた。

参加者からは、その絵を見た

だけで、岡さんのエッセーが浮かんでくるといふ声も聞かれた。

『岡さんのエッセーの秘密』

教師として色々と人に教えてい

る立場の岡さんではあるが、実際

れ合ってきたでありましょうか。その出会

いは、寓話として一過する人。生活の指針

として、受け止める人。心の支えとなって、

その人を力づける人。何かそこに、目には

見えない深い神秘を覚えずにはいられませ

ん。

私は、「サロン・あべの」に参加させて

頂き数年になりますが、世間在り来たりの

日常生活では到底会得の出来ない生き方を

学び、そして、更にこの度またお若い岡先

には地域福祉の活動ができていないという思いが、岡さんにエッセーを書かせている。

何かに感動したとき、その気持ちをずっと持続し、どの様に表現

していくか心の中で熟成し、熟

きったときに、初めてエッセーという形で現われる。

今も岡さんの心の中には、エッセーになる前の色々なものが、い

っぱい詰まっているようである。

この日の参加者は、二十三名。

司会は、富田慶子さんでした。

生と御著書に巡り合ひまして、いかに慎し

み深く人生を歩むかを教えられました。こ

れは、礼儀作法の慎しみではありません、心のつつしみです。

その上、早瀬様のお言葉にもありますが、

心に光りを灯して下さる大きな力が、読む

者を確かにゆたかに包容して下さいます。これ

は全く先生の愛の偉大さを思います。

三月二十一日の例会には、はるばる御出

席下さいました。この日を待った方は、沢

教えられる人の愛と慎しみ

金子花江

岡先生も書いていらっしやいます人と人

との出会い。広く言えば、この地球上に存

在している人間は、どれ位多くの人々と触

山おられたと思いますが、生憎の雨もよいで空を恨んだ方もありだったでしょう。

「ご本を読んでの感想をとの富田様のご司会で始まりました。先生からも色々お話を伺えると存じてましたが、穏やかに笑まれながら、お言葉は実に少なく、でも明るく対応しておられました。その方に接しているそれだけで、何だか私は、ほっとしております。こうして、今日を恙なく生かさされ、明日も恐らくは安らかに人生を迎えられるでしょうが、先生はそうした営みに沢山の疑問を与えて下さいました。

「何もなかった幸せ」「自分の為に」これらはリッお早うリ、リ今日はリ、のような日常語に位置づいておりますが「何もなかった幸せ」には人間のおごりを感じました。「人を救うもの」では、先生と男の子との触れ合い、重い障害の子なればこそ純粹な童心は、先生のお手の温かさを見通したと思います。

「ごめんねと言われて」では、私自身を恥ずかしく省みました。

先生のお言葉が電波にのって、多くの人の心を潤して欲しいと願っています。

「知らされない愛について」  
を読んで

河合恵子

「知れされない愛について」ご出版おめでとうございます。この「サロン・あべの」に掲載されている岡知史先生の文章、毎回楽しみにしております。

岡先生はあべのボランティアビュローのコーディネーターをしていらしたおり、私に「サロンあべの」発足について教えて下さったかたですが、一冊になったこの本を読ませていただいたと感じたことはなんと自分に正直なのだらうということです。そして人々との関わりを非常に大切にしながら、その日その時を送っているかただなあたらためて思います。日常生活の慌ただしさのなかに忘れたり、見過ごしてしまいそうなることを真正面から受け止めて考えていらっしやる。

この本のどの文章の根底においても

絶えず流れているものはタイトルにある「愛」そして「孤独」ではないでしょうか。もちろんそれはただ単純に誰かが好きだとか、寂しいというのではなく、そこにはもっと深い意味が込められているのですが、岡先生の眼は常に人間に対して向けられている。

先生の文章を読んでいるうちにこれまであまり思い起こすことのなかった次の聖書の言葉を思い出しました。そしてその言葉の意味するところがすこしわかったように思います。それはパウロがコリント人にあてた手紙の一部。「愛は寛容であり、愛は情深い。また、ねたむことをしない。愛は高ぶらない、誇らない。不作法をしない、自分の利益を求めない。いらだたない、恨みをいだかない。不義を喜ばないで真理を喜ぶ。そして、すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてを耐える」

愛という言葉は人と人との関わりあいかたと置き換えることもできると思っています。

「春」という季節の中で

前田 博子

菜種梅雨が続くなか、一雨ごとに周りの景色にやさしい雰囲気が始める今日この頃です。この時期は、春独特の透明感と相まって、何とも言えないさわやかでわくわくとした気持ちにさせてくれる季節だ、と思います。子供のころから、何かが新しく始まるのは決まってこの季節でした。だから、何も新しいことがおこらなくなっても、やっぱりわくわくしてみたり、「心機一転」してみる気になったりするのでしょうか。「春」という季節は、私たちを元気にしてくれる季節です。だからこそ、この季節に元氣になれない時は必要以上に落ち込んでしまうようです。周りの人たちと自分との落差が目立って、よけい孤独感が増すのかもしれない。

その深さはまぢまぢでしょうが、誰でも一度くらいは「孤独」を味わったことがあ

ると思います。人間が「孤独」を味わう時というのは、自分が否定されたように感じるとき、自分の存在が取るに足りないもののように感じるとき。だから、その「孤独」を救ってくれるのは、思いがけない友人からの突然の手紙だったり、元気に笑っている自分の写真だったり、毎年きれいに咲く桜の花だったり…。自分の存在を認めてくれるもの、自分も他者も自然の中で精一杯生きていると気づかせてくれるものに出会ったときなど。内向的になって自分の気持ちに違った視点をもたらしてくれそうです。とっても些細な出来事が、「孤独」で神経の過敏になった私たちの心を癒してくれるように思います。

私たちが何度となく「孤独」を味わいながらも、立ち直り生きてこれたのは、そんなさまざまに「出会い」があったからです。何気ない一言に、見知らぬ人の笑顔にどれだけ救われたことでしょうか。その時々「出会い」に感謝しながら、自分もそんな「出会い」を作れる人間の一人でありたいな、と春爛漫の季節の中で思いました。

おしらせ

五月の 出 会 い

日時 平成四年五月十六日(土)

午後一時～四時

場所 育徳コミュニティセンター

二階 研修室

(スロープ・車椅子トイレ有り)

「阿倍野区阪南町五―十五―二八」

内容 「障 害 者 と 就 労」

パネラー

大阪障害者職業訓練校

情報処理系指導員

山田 隆 司 氏

会費 無 料

問い合わせは、 富 田 慶 子

電話〇六一六九一一〇二八まで

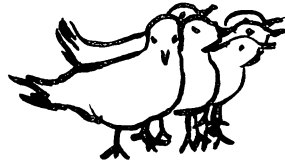


青い鳥はがき

今年も四月二十日に青い鳥はがきが発売されます。例年どおり障害手帳一・二級をお持ちの方には、二〇枚ずつ給付されます。お早めにお近くの郵便局へ。

日曜サロン

# 「しあわせの村」ツアー



例年よりもしつかりした「なたね梅雨」のお蔭で、「ハンズ」主催の『神戸しあわせの村一泊ツアー』出発の日は朝からあいにくの曇天。それでも「あべのサロン」日曜サロン」から参加された方も含め総勢四十三名がバスに乗り込みおわるころまでは、何とか雨だけには合わずにすむことができました。しかし現地に着くころにはすっかり雨になってしまい、「しあわせの村」を散策する「値千金の春の宵」を楽しむ事は出来ませんでした。おまけに翌日、予定していた「ローンボールス」という屋外で行うボーリングのようなゲームも、芝生が濡れていた為にほとんど出来ず残念な結果になりました。その代わり、と言うわけでもないのですがツアーに参加したほとんどの人達が一つの部屋に集まって、夜の更けるのも忘れワイワイ

ガヤガヤ語り合えた、とっても楽しい出会いのひとつときを持つことができ、やはり「一泊旅行」という「ハンズ」にとって初めての、そして少なからず「しんどかった！」企画を立てたことが、自己満足かも知れないけれど間違いでなく良かったと思えた場面でした。

初めて企画した一泊旅行。それだけに、二度も下見に行ったりし、計画はあくまで慎重に、そして介護の手は余裕を持ってというプランを立てていたのですが、いざ人集めとなるとどうしようもないくらいの介護者不足だったのです。余りにも当初のプランと違って、介護してくれる人が足りない状況でのスタートになってしまいヤキモキしていたのですが、そこは「ハンズ」に集まってきてくれた人達。積極的にお風呂の介護に、食事の介助に、と動き回って下さりどうにかやり遂げることができました。

いつでも温かい人達が集まってきて、心が通い合えるような場作りを目指す「ハンズ」にとって又ひとつ良い経験が増えたーそんな思いを新たにしています。

「ハンズ」からのレポート

# ナンペイの

## ひとつこと&ふたこと<sup>20</sup>

\*障害者はオブラート?\*

本人には、決して悪意はなく、いや、むしろ逆に相手を思いやって発した言葉が、その相手を傷つけたり不快な気分させている。そんなケースが世の中にはよくあるようだ。もちろん、私自身もそんなふうに関心の心がつかないあいだに傷つけるような言葉をそこかしこに撒き散らかしていることを自戒しつつ、この文章を書いている。

つい一週間ほど前のことなのだが、三、四日雨が降ったり、降らないにしてもどんよりと曇り空が広がる、そんな天気が続いたあとやっと春らしい青空が覗いた日のこと。

私は、あまり気乗りのしない、出来れば行きたくない目的地に向けて車椅子を転がして

いた。そんな道すがら、突然後ろから声を掛けられた。振り向けば、見知らぬ中年婦人。

「イヤ、やっと外に出られてよかったねえ、ほんま、雨やと出たらあかんし天気になつてよかったねえ、どんどん外へ出なあかんよ、ほんま天気になつてよかった……」

初め、その婦人が私のことを誰か他の知り合いの障害者と間違えて話しかけているのかと思っていたのだから、どうもそうではないらしい。まさしく目の前の障害者である私に、語りかけ論してくれているのだ。

「ほっといて!」

思わず私は言ってしまった。

私はその前の日も、又その前の日も雨のなかを出掛けている。もちろん、雨の日だとカッパを着たりしなければならぬ面倒なことは言うまでもない。出掛け慣れていない障害者にとっては、尚更億劫さを感じるのだらう。

しかし、その面倒さは障害者を持っていない人も多少の差はあるにしても感じることはないだろうか。この婦人にしても普段からそう感じているから、「天気になって良かった」という言葉が口を衝いて出たのだろう。その気持ちを私に伝えたくて語りかけてくれたのかもしれない。

だがその言葉で私は、ムツとしてしまった。「雨の日にだって障害者は出歩いているんだぞ。雨に濡れたって溶けてなくなるわけじゃない。オブラートじゃないんだぞ。」

声にこそならなかったが、心のなかではそう言っていた。冷静になって考えてみれば、そこまでひねくれて受け取る事ではないのだから、その時の私には、「障害者は雨の日なんかにはウロウロしないでおとなしくしてなさい」と言われているように感じられた。

やはり素直に受け取れなかった私の心の状態が悪かったのかも分からないが、言葉を変えず相手の事を良く知らないのに独りよがり婦人の態度にも問題があったように思う。

こんな些細な言葉でも良くも悪くも取れるのである。心しておきたい。

南光龍平

## Volunteer Center

12

### 九 ボランティアセンターの機能(各論)

#### ③ コーディネート

コーディネートはボランティアによる援助を受けたと思う人と、ボランティア活動をしたと思う人をつなぐ、ボランティア



アセンター(VC)の中心的機能である。コーディネート(coordinate)は、「調整する」とともに「同等にする」という意味をもったことばである。つまりコーディネートするということは、単に二つのものを結びつけるだけでなく、きちんと調和させるということが含まれているのである。

この「同等にする」という意味は、ボランティア活動のコーディネートの場合には特に重要かつ難しい面をもっている。それは、ボランティア活動は「援助を行う側」と「援助を受ける側」という非対等になりがちな関係によって成り立っているからである。しかし、そのような異なった立場の人がふれあう活動であるからこそ新たな共感をもつ機会ともなるのであり、適切なコーディネートが行われるかどうか重要なキーポイントとなるのである。

したがって、コーディネートは援助を必要とする人と援助を行う人をつなぐ需給調整だけでなく、活動に対するさまざまなフォローを一体的に行っていく必要がある。

また、ボランティアによる援助を求めている人のニーズはボランティアの援助だけで解決できることは少ないので、公的サー

ビスなどのさまざまな社会資源と結びつけていくこともVCのコーディネイト機能として必要となるものである。

このように、コーディネートは非常に重要な役割をもち、しかも一つ一つ個性をもったニーズに対応していかなければならないことから、コーディネーターには専門性をもった人が必要となる。ボランティアニーズが急激に増加している現在では、専門のボランティアコーディネーターの養成と確保が緊急の課題である。

しかし、専任のコーディネーターの配置は市民組織のVCにとっては人件費の捻出の点で大きな負担や困難となる場合が多く、公費による補助を行っていくことが必要である。また、コーディネーターの養成に対しても公的な援助が求められる。もちろん公的援助によってボランティア活動の「市民性」を損なうことがあってはならないということが基本であり、「サポートするがコントロールしない」という原則に基づいた援助の方法を確立していくことも重要な課題となっているといえよう。

原田 仁

よい土になること

ある人の詩(＊)に「いい土になりたいものだ」という言葉がある。それはどのような願いだろうか、土になることは私たちには避けられない道なのだが。

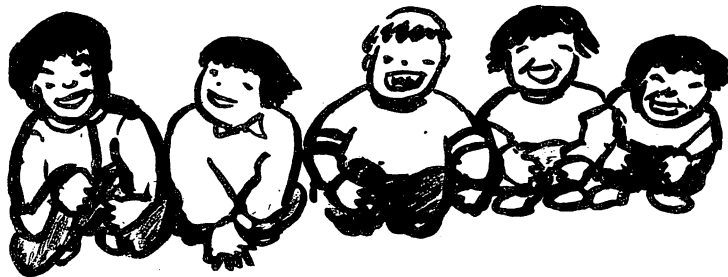
土は手にとると、ぼろぼろと指の間から落ちていく。練って形づくられた土もあるが、それは、もはや私たちがなるはずの土の様子ではない。私たちがなる土は、どこまでも形のない、暗い色のそれであり、容易に他の土とまじりあい己を保つことはない。

土は踏まれながら、すべてを支えるのだ。すべて落ちるものを受けとめ、

力つきたものを抱きとめる。私たちが誰もがそのような土になるのであり、そうなるものとして生きている。

よい土とは、育てる土である。そこに種が落ちたとき、豊かに実るよう支え潤すのが、よい土の証しだ。土は、実らず枯れたものも、熟しながら取る手に恵まれず朽ちはてたものも、等しく受けいれ、土に変えていく。

よい土を見つけて手にとっても、それが過ぎた日にいのちをもち、多くの土を踏みしめて歩いていた姿を想うことはできない。土は、まじりあい水に流され風に吹かれ、もはや誰の身体で



あったかと区別されることもない。しかし、それでも、育てる土と不毛の土があったのである。



私たちは土にもどらなければならぬが、そのときは、よい土になりたいと思う。己にこだわり、自分を飾りたい私だが、踏まれながら支える土のほかに、どんな選択もないのなら、人が恐れる荒野の土になるよりも、実りを産む黒ぐろとした土になりたいと願う。農夫の汗を吸い、地を這う虫を守り、舞い疲れた蝶の最後の寝台として、いのちが土から産まれ土に帰っていく様を見ることができれば。

避けられない道を、こちらから選びとろうとするとき、私たちの自由がある。踏まれながらもささえ、風や水に己を散らされながら育てようとする土は、私たちのいのちに与えられた、最後の、そして戻るべき原点ではなかったか。

四月の復活の日(イースター)には桜の小さな無数の花びらが、土の上に優しく降りつもであらうが、それはきつとよい土になりえた生き物たちへの花の返礼にちがいないのだ。(知)

(\*) 新川和江「土へのオード十三」  
新川和江文庫三(花神社)所収

## 美智子のこんな話



岸田 美智子

大阪市の制度が

四月からこうなりますヨ!

四月といえば入学や、入社など人生の新しいスタートの時期です。

そして、私達・障害者の生活にとっても関係のある大阪市の福祉制度が少しですが四月から良くなるようです。

まず在宅障害者の介護制度です。全身性障害者介護人派遣事業が時間数、時給額とも上限が上がります。

一〇五時間→一二六時間、  
一一九五円→一二九〇円

で毎月の最高金額が  
十二万五四五円→十六万二五四〇円

となります。

施設障害者の方もこれにともなって上がるようです。十六万二五四〇円と言え、かなりの額なのでうまく使っていけば地域での在宅障害者の介護保障につながって行くと思います。

でも私のまわりで見聞きする範囲では、介護料は、どんどんたまって行くのですが、介助者がみつからないと言う状況があるようです。それで大阪市の方でも介護料のアップと合わせて、人の派遣も色々と考えているようです。でもこれからの高齢者社会にむけて、老人問題と合わせて、大きな問題になって来ています。介護の時間帯なども早朝や夜の時間帯の派遣(朝七時〜夜七時ぐらい)を実現しようと打ち出しています。又、同性介護の保障のために、男性ヘルパーの増員にも取り組んで行く姿勢があるようです。同時に障害の程度によっては、二四時間介護が必要な人もおられるので年末・年始や、お盆などの休日派遣や、緊急時の派遣の対応も至急に考えて行かなければならないと思います。このような問題を解決するためには、ヘルパーの方々の身分保障、退職金や保険制度なども合わせて、

考えて行かなければなりません。

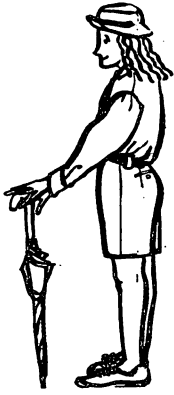
それには、十六万二千五百円という額は、障害の程度によっては、まだまだ低いのです。

地域で暮す、障害者が一人でも多く、この介護料を使いきって、気の合う介助者を見つけ、より豊かな地域での自立生活を送ってほしいと思います。

そして、最後に日常生活用具の認定範囲の拡大です。トーキングエイドや、音声体重計なども増えますし、車イスのレインコートも（これは、大阪市だけです）日常生活用具の中に新しく含まれることになりました。

雨の日の車イスでの外出はまだまだおっくうになりがちですが、高額のレインコートもこれで安く買えそうです。

これからは、皆さん雨の日もどんどん出かけるようになってほしいものです。



井 感謝 します 井

カンパ・お茶菓子・アルバム・冊子・等  
ありがとうございました。

お礼を申し上げます。

三月のカンパ 金一五、九〇〇円

石田 律、金子花江、小泉田恵子、

小西千代子、坂井証子、阪田富子、

杉山薫江、森下公子、匿名二名様

(敬称略)

〇〇 サロン・あべの紙の

朗読テープが出来ました 〇〇

山本敏子さんのご協力で、サロン・あべの紙六九号の録音テープが出来ました。

バックナンバーは三九号から、六九号の分があります。五〇号は五周年記念紙になっており、九〇分と六〇分の二本のテープに収録されています。

サロン紙朗読テープをご希望の方には、ダビングをしますので、富田までお申し出下さい。(☎〇六一六九一一〇二八)

### 編集後記

<サロン・あべの>紙に毎月エッセーを書いて下さっている岡知史氏のエッセー集「知らされない愛について」が発行されたのを良い機会に「久しぶりに岡さんと…」三月のサロンの集いをもちました。(知)さんて誰?、どんな人?と密やかに尋ねて下さる方も増えてきていて、この日の出会いを楽しみに参加下さった方、またあべのボランティア・ビューロー時代の岡氏を知る方には、久しぶりの出会いとなりました。(T)

編集人; サロン・あべの運営委員会・<サロン・あべの>NO.70[92. 4.18 発行] 定価¥100.  
代表; 上平幸雄〒545 大阪市阿倍野区阪南町2-20-19-203 電話06-621-4365  
連絡先; 富田慶子〒545 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26. 電話06-691-1028  
表題; 斉藤孝文・筆  
印刷; セルフ社〒545 大阪市阿倍野区西田辺町2-2-10-101. TEL.06-691-2365.

サロ

出合い ふれあい 助け合い



あべの

特別  
付録

## 写真でみる1991年

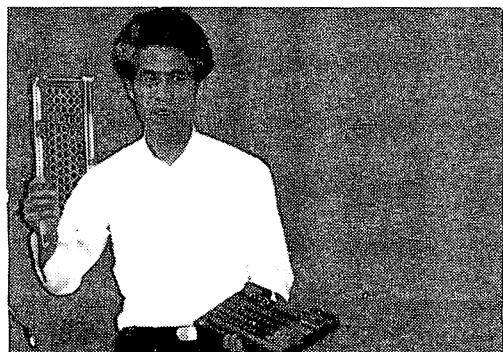
いろいろな出会いをもち たくさんの  
人とふれあった昨年を、写真でふりか  
えってみました。



障害者の教育と自立  
(3. 5. 18)



天王寺動物園 再発見 (3. 4. 20)



自助具の部屋 (3. 6. 15)



日曜サロン「阿倍野区身協40周年記念大会」に参加 (3. 9. 29)



がんばれ リサイクル  
(3. 9. 21)



日曜サロン「楽しいボウリング」  
(3. 6. 30)



人にやさしい街づくり  
(3. 7. 20)



さろん亭—あべのカーニバル (3. 8. 4)



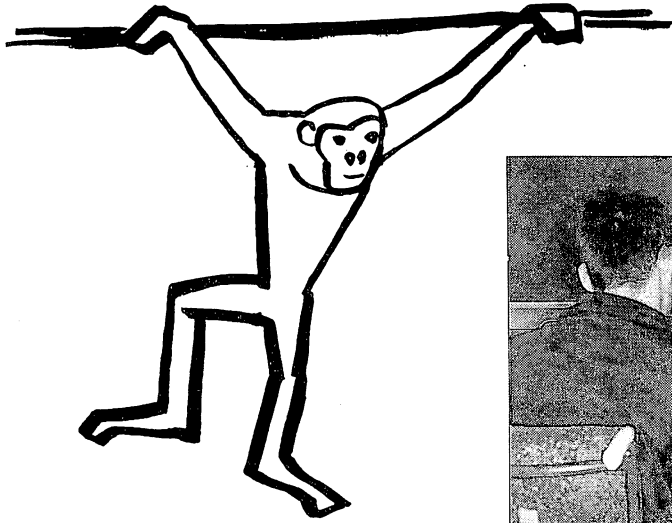
社会福祉のQ. O. L  
(3. 10. 19)



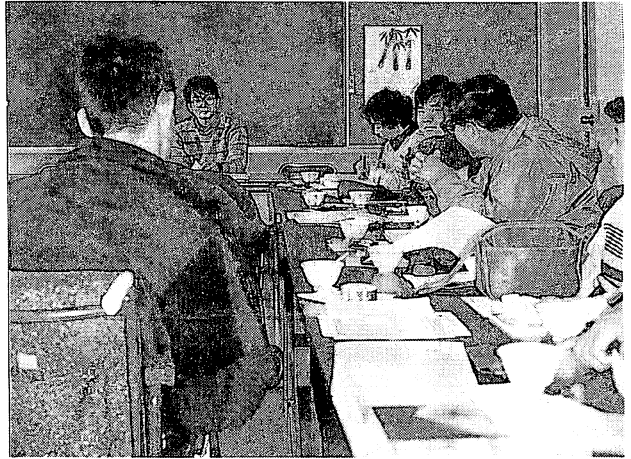
マイ クオリティ オブ ライフ (3. 11. 16)



ジングルベルが聴こえたら、今年もHAPPY XMAS! (3. 12. 7)



にぎやかに 華やかに (4. 1. 18)



久しぶりに、岡さんと (4. 3. 21)



車イスで ちょっとお出かけ (4. 2. 15)

編集人；サロン・あべの運営委員会・<サロン・あべの>NO.70 付録[ '92. 4.18発行]

代 表；上平幸雄〒545 大阪市阿倍野区阪南町2-20-19-203 電話06-621-4365

連絡先；富田慶子〒545 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26. 電話06-691-1028

表 題；斉藤孝文・筆

印 刷；セルフ社〒545 大阪市阿倍野区西田辺町2-2-10-101. TEL.06-691-2365.